

シニアの学び舎

レイカディア大学だより 草津キャンパス

No.56

2025.2.27

シニアが新しい教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援しています



撮影 広報情報部会 T.K

★春はもうすぐ★
毎年三月初旬になると、皇子が丘公園の「ハツミヨ桜」にメジロが現れ、今年も明るい良い一年になりますように！

第46期入学者のアンケート結果

入学願書提出時のアンケートにおいて、「学生募集を何で知りましたか？」とお聞きしたところ、以下の結果となりました。

「友人から(20.5%)」「卒業生から(16.0%)」「レイ大生から(5.6%)」合わせて42.1%が、口コミをきっかけとして応募されています。一方で、「市町広報誌(17.2%)」「県広報誌(16.0%)」合わせて33.2%が、紙媒体の広報誌によるものでした。また、「ホームページ(11.9%)」も高い割合を占めています。このように、在學生・卒業生の口コミの力と、県・市町の広報、インターネットを使った情報発信がうまく機能している結果となりました。

47期学生募集につきましても、事務局でもより一層、広報に力を入れてまいりますので、卒業生の皆さまにも、引き続きご協力頂きますようよろしくお願いいたします。(アンケート実施・集計 レイ大事務局)

前年に続き新生にアンケートを実施致しました。

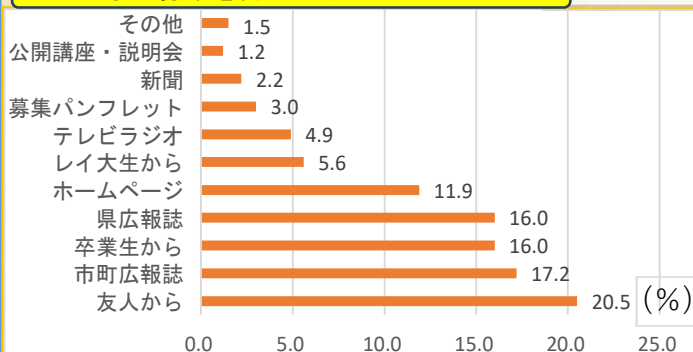
140名/152名(回収率92%)と多くの方々に御協力頂きました。貴重なデータは、47期生の学生募集活動に活かしていきます。アンケート結果からうかがえることは次のとおりです。

1. 男女構成比では49%が女性(45期は43%、44期は37%)で、年々女性の入学者が増えています。今後も女性の入学者が増えると予想され、カリキュラム等の見直しや検討が必要になるかも知れません。
2. 入学を決意した「きっかけ」は、ホームページのウエイトが上がる一方、友人・卒業生のウエイトは大きく低下しています。ホームページの一層の充実に加え、口コミ勧誘等をより積極的に行うことが望まれます。
3. 公開講座・学科見学会の参加率は42%(45期は58%)と低下しており、オープンキャンパスの定期的な実施、学科見学会・公開講座の開催頻度の検討等が必要と思われます。

学生募集プロジェクトリーダー 小森 慶宣

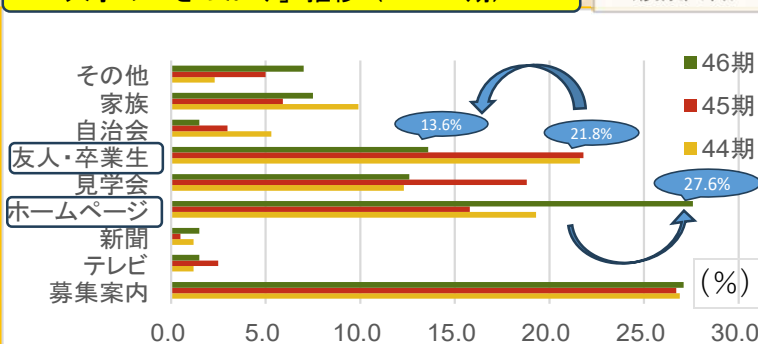
学生募集を何で知りましたか？

(複数回答)



入学の「きっかけ」推移 (44~46期)

(複数回答)



淡海詩吟クラブが発足10周年を迎える今年は、クラブ卒業生の先輩の江州吟詩会と一緒に記念詩吟大会（11月22日：東近江市やわらぎホール）を実施します。草津キャンパスの皆様が「シニアの学び舎」を読まれる時には済んでいますが、原稿執筆の今は大会に向けて練習に励んでいます。

中高校生の時、国語や漢文で「国破山河在」（春望）、「少年易老学難成」（偶成）の漢詩を学習しました。当時は私も難しく感じました。しかし、年を重ねたこの頃は先人・先達の言葉に納得と共感を覚えています。漢詩と呼ばれていますが、日本人の作も沢山あります。



しみじみと鑑賞するとともに自分の肉声で朗々と発声すると爽快な気分になります。年を取ると喋る、話す、そんな機会が少なく喉や腹部から声出すことがなく、健康面からも良い効果があります。草津キャンパスの一人でも多くの方が体験的にでも練習日（クラブ案内板に掲示）にお顔を出して見学されるともっと伝わり理解されると思います。

また、月一回の練習日には江州音頭の稽古をしています。恒例の大学祭ステージ演芸の最終演目（オオトリ）を先輩の協力のもと愉快地演じています。

淡海詩吟クラブ代表 本郷 芳紀（45期びわこ環境学科）



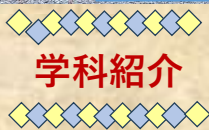
定例発表会（守山会館①）



定例発表会（守山会館②）



奉納吟詠旅行（大津坂本）



学科紹介

45期 陶芸学科

レイカディア大学陶芸学科に入学してから1年が経ちました。

クラスの皆とは最初から打ち解けて、和気あいあいと陶芸や基礎講座の授業に取り組んできました。

陶芸の授業では陶芸の経験あり・なしの人たち、各々レベルの差はありますが先生方の講義・実技指導、サポートの会の先輩方からのアドバイスもあり、笑いが絶えない中でも真剣に作品制作に取り組んでいます。

この1年余りで湯呑みに始まり、花入れ・壺・抹茶碗・四角箱・自由作品など20点近く作陶し、釉薬掛け、窯での焼き上げと多くのことを学びました。

また、作品は県立美術館をはじめ、平和堂や南草津駅構内にも展示しました。素人の作品で恥ずかしい気持ちと多くの人々に鑑賞してもらえる喜びがありました。



窯出し後の作品群



授業の様子



信楽陶芸の森：登り窯



大学祭、クラス全員で斉唱

大学祭では、作品展示・絵付け体験・作品バザー、さらにはクラス全員で竹内まりやの「人生の扉」などを斉唱しました。授業の後に何度も全員で歌の練習をし、さらに絆を深められました。

また校外学習は信楽陶芸の森と長浜富田人形浄瑠璃鑑賞、クラス内や先輩方との懇親会などで親睦を深められました。

45期陶芸学科 学科長 大橋 知典

サポートの会に「学科部会」誕生!!

彦根キャンパス同様、草津キャンパスサポートの会にも学科部会が新設されました。

サポートの会では、コロナ禍、会の加入率が大幅に低下したことに危機感を強め、昨年から学科部会設立に向け取り組んできました。

11月25日、70余名が参加して学科部会オリエンテーションが開かれ、それに続き、学科ごとに第1回部会が持たれ、学科部会のスタートとなりました。

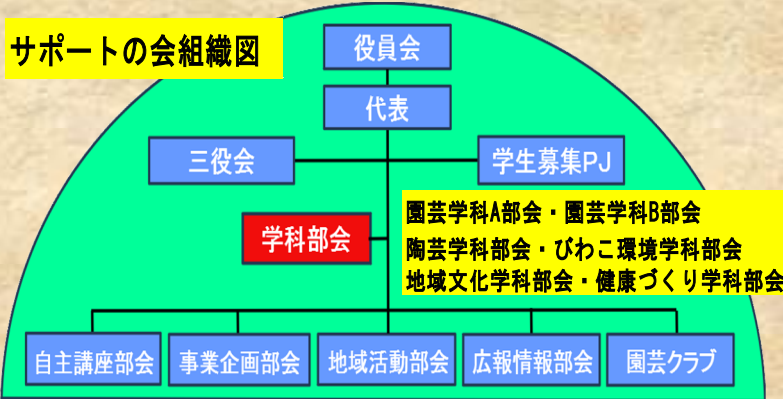


学科部会オリエンテーション



第1回部会(健康づくり学科)

サポートの会組織図



学科部会って？

サポートの会に入会した、同じ学科の卒業生3学年からなる部会です。6つの学科部会があります。

学科部会は何をする部会？

①これまで学科単位で行われてきた講師助手や校外学習サポーター、②各種会員への連絡やアンケートの送付・回収のほか、新たに③大学事務局から要請されたりリモート授業の応援業務、④同じ学科の在学生との交流などを担当します。

サポートの会に新たに入会された方は全員学科部会に所属していただきます。ですから学科部会は会員のホームと言えます。ここを拠点として一人ひとりがサポート活動へ取り組んで行くのです。そして仲間が集い、在学生と交流する場となります。私達はこういう所がサポートの会に必要なだと考えました。きっと今後のサポートの会へ新たな活力を与えてくれると信じています。

令和5年12月に学科部会の新設に向けた取り組みを始め、44期学科長とサポートの会で設立準備会を作り、立場立場の意見を取り入れて準備を進めてきました。学科部会への期待は大きく、44期生の入会率は前年比10%も増加し、43期生の方も14人新たに入会していただきました。多くの会員の皆様のご期待に応えるべく、活動を実のあるものに育てていく所存です。

サポートの会代表 金田 博司

校外学習サポーター活動報告①

地域文化学科

学科部会紹介



教室での授業風景、この準備は皆でやりました

午後の授業は屋外の古墳まで移動の予定でした。昼食後、教室の後片付けを終えて移動です。その時の「**さん乗りました？」「**さんの車は何人？」等々、こうした車移動時の確認は大変重要です。

そしてこの日は朝から雨模様、荒神山の尾根一帯に造られた古墳の現地見学でした。傘を差しつつ古墳へ登りましたが、濡れ落ち葉で足元は滑るわ傘は差さねばと、リスクも大きくサポーターが一番気を使うシーンでした。

結果として、大きな問題もなく無事授業を終えました。本来のサポーター活動とその取材とで充実の一日となりました。活動報告/佐々木

冷たい雨が降る師走の24日、46期地域文化学科の校外学習のサポートに行ってきました。校外学習サポーターはサポートの会の重要な活動の一つで、参加者の「安全管理」を中心に「会場準備」「フィールドワーク誘導」「その他雑用」等々、授業が問題なく進み、そして無事に終わることをサポートするのが役割です。

今回の校外学習は彦根の荒神山古墳。柏原歴史館の谷口先生の講義で、テーマは「荒神山古墳とその時代」です。授業は校外学習も通常の10時スタート、当然会場準備がなされていない事も考慮しサポーターは早めに入ることが基本となります。この日は9時過ぎに会場入りをし、既に到着されていた46期生と即、会場の準備に入りました。会場準備を終えれば到着する生徒さんの誘導・案内、そして授業中は写真撮影などやる事がいっぱい。



足元に気を付けながらの古墳の授業



サポートと取材、大変です

学科部会の活動紹介として、地域文化学科に続き、園芸学科A・Bの校外学習サポーターを紹介します。

11月25日、45期園芸学科A・Bの校外学習に、43期園芸学科Bの方と一緒にサポーターとして参加しました。寒い時期でしたが、この日は天候に恵まれ、紅葉もあり、校外学習日和でした。また当日は、コロナ禍の時に校外学習に行けなかった42期園芸学科Bのグループも私たちと同じ行程でウォーキングをされていました。

サポーター活動の最初は、朝9時過ぎ、地下鉄東西線蹴上駅で、「2番出口を出て左」と学生に集合場所を伝えることでした。全員集合して永観堂禅林寺、大本山南禅寺に向けて出発。歩いて30分ほど。合計40名ほどで行列が長くなるので、列の後方で、交通の安全やはぐれた学生がいらないかなどに気を配っていました。この間、信号で急がせて、少しきつい言い方をしたかなと反省する場面もありました。平安神宮神苑での樹木説明時には、他の来場者の邪魔にならないようにアシストしました。昼食後、京都市勧業館で「第44回日本盆栽大観展」を見学。立派な盆栽を見て午後3時半に現地解散し、サポート活動を終えました。



平安神宮境内へ



京都市勧業館で解散



平安神宮神苑に向かう

2年前、私が学生の時、校外学習は遠足のようなものでした。今回の皆さんも和気あいあいとしていて、私も当時を思い出し、楽しい気分になりました。私にとって、校外学習サポーターは、復習になるとともに、レイ大への恩返しでもあります。活動報告/43期園芸学科A 渡邊 昭子

缶バッジ販売



12月13日、レイ大校章バッジの販売を大教室前で行いました。このバッジは、平成26年・第5期サポート隊が、学生の連帯及びレイ大の知名度向上のために製作したもので、以降、広報情報部会において販売を引継いできました。今年は91個販売できました。購入していただいた皆様、レイ大の知名度アップにもご協力ください。なお、年一回の販売日以外での購入は事務局に問い合わせください。広報情報部会

オカリナで笑顔を届けるグループ「オカリナL5+1」(37期+41期陶芸学科卒業)

OBは今

私たちは女性5名、男性1名計6名のオカリナ演奏グループです。陶芸学科在学中、『自分で作ったオカリナで演奏したい』という思いの仲間が集まり、レイ大の窯でオカリナを作りました。その後、同じく在学中にオカリナを作り、吹いていた41期の川嶋さんも合流しました。

当初は皆で演奏を楽しむだけでしたが、いつしかオカリナの響きで地域に笑顔を届けようということになりました。今ではレイカディア「えにし」の会」の出前公演を中心に、地域の高齢者の集いやデイサービスセンターなどで演奏活動を続け、楽しい日々を過ごしています。

(代表・八嶋かずえさん談)



オカリナ L5+1



曲当てクイズ



溝口さんとケンちゃん人形

11月10日、「野洲駅前自治会のつどい」取材しました。この時はあいにくお一人欠席でした。メンバーは全員、八嶋さん手作りのオカリナ帽子を被って演奏し、溝口さんが腹話術でケンちゃん人形と共に司会進行を担当していました。

演奏曲は「瀬戸の花嫁」など誰もが懐かしく感じる名曲ばかりです。曲に合わせ、聴衆も一緒に口ずさみ、会場は笑顔と温かい空気に包まれました。特に、「青い山脈」では聴衆も男性は白線帽子、女性はセーラー服の襟をまとい、メンバー・聴衆一体となった大合唱となりました。その他、2曲・3曲同時に演奏して聴衆が曲名を当てるというクイズも大好評でした。演奏終了後には「懐かしかった」「元気をもらった」などと感謝の声が寄せられていました。

メンバーは「これからもオカリナの音色と笑顔を届けるため、活動の場を広げていきたい。」と楽しそうに取材に答えてくれました。

取材/近松

発行：滋賀県レイカディア大学 草津キャンパス サポートの会
 編集：草津キャンパス サポートの会 広報情報部会
 〒525-0072 滋賀県草津市笠山 7丁目 8-138
 県立長寿社会福祉センター内
 TEL：077-567-3901 FAX：077-567-3906
<http://lacakusatsu.com/1-supportai/index.html>



編集後記：

前回55号から13期先輩より引継ぎ、無我夢中で取り組んでまいりました。この号より益々メンバーが団結し、取り組むことが出来てきたように感じます。原稿や写真を快く提供していただいた方々に感謝いたします。今後も部会員一同力を合わせて頑張ります。よろしくお祈いします。(S.O)